

「高連協年頭学習集会 賀詞交換会」

2013年1月9日（水） 都内・内幸町プレスセンター 15:00～17:30

樋口恵子代表 あいさつ

皆さま明けまして、おめでとうございます。

昨年から今年にかけて、たいへんな変化がございまして、これをどう受け止めるか。

1月7日の「時事通信の新年会」にわたしも行ってまいりましたけれど、安倍総理が自信満々だったのに対して、もっとがんばってほしい海江田さんの話に元気がなくて、まあそんなものなのかな、と。ですからみなさんのうちにも、わが世がきたと思う方、困っちゃったなと思う方、どちらでもない方いろいろあると思いますけれど。

誰が政権をとろうと、世界まれにみるスピードでの「超高齢社会」というのはこうしている間にも時々刻々進んでいるのであります。

で、わたしは政権いかに関わらず、多少は関わるのかもしれませんが、基本的にはわが高連協には追い風が吹いてきていると思っております。これは年来の皆さま方のご活動によるところでございまして、ご承知のとおり昨年、後れていた「高齢社会対策大綱」が閣議決定されまして、そのなかにはわたしどもが当時の野田総理に提出いたしました高齢者の社会参加、高齢者の就労促進、あるいは高齢者の学習の促進、そのようなこともすべてこの「高齢社会対策大綱」の中には入っております、幸いにわたしどもの会とたいへん関係の深い清家篤先生が座長でもいらっしゃいましたし。

そこに示されておりますように、わたしどもの年来の主張である高齢者が当事者として社会に参画し、できるならば意欲と健康の許すかぎり社会に参加して、いままでの意味の雇用でないにしても、社会に参加して働いてお役にたって生きていくということが一定の数値目標も示されている。これは画期的なことで、日本社会を「人生65年社会」から「人生90年社会」型へということがはっきりと謳われております。

わたしはもう10年近く、「人生100年、人生100年」といつてきて、90年ではまだ10年足りないのですけれども。これははっきりと平均寿命が7歳違う男と女の違いだと思っております。女性は平均寿命が86歳だから、人生90年といわれると「90年、あと4年か」と思う。ところが男性は平均寿命が短い。80歳をかすっているところだから、「人生90年、おお良いな」と思う。ここらへんにも男女差別がまだあることを、ひとこと申し添えた上でですけれど。

ようやくわれわれの活動に政策が追いついてきた。考えようによっては高齢者に自立を強いる政策であり、ある意味では残酷な政策かもしれない。認知症は10人にひとりといわれますが、認知症になる可能性もあり、どんなに努力しても自立を失うこともある。これは堀田代表がずっとおっしゃりつづけておりますけれど、認知症になっても尊厳をもって人間として生涯がまっとうできるケアがきちんとあることと表裏一体と

して、わたしたちは力あるかぎりお役にたって社会に参加していきたい。

このことがきちんと政策に載ったという意味では、社会の多様な分野で活動してきてくださったわが高連協の皆さま方のグループ、個人の方々の活動の結果が実ったということでありまして、わたしたちはいま追い風に乗っているつもりで、みんなでこれから1年がんばっていきたいと思います。

* 「高齢社会対策大綱」 2012・9・7 野田佳彦内閣(担当大臣中川正春)閣議決定

[対策大綱 20120907](#)

* 高連協「高齢社会対策大綱の見直し」に当たって提言 2012・1・12

[高連協提言 20120112](#)